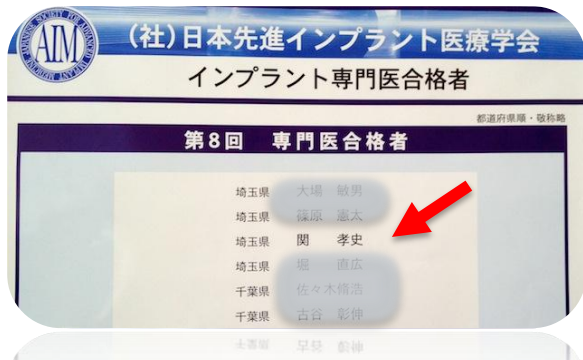




日本先進インプラント医療学会(AIM)の 『インプラント専門医』認定試験に合格いたしました！

奮闘の証



2012年度 AIM インプラント専門医合格者は 計 16 名でした

試験は、午前中記述形式の問題が 5 問、午後は口頭試問。思ったより長丁場の、1 日かかりの専門医試験でした。受験者数は約 20 人。口頭試問では、施術症例の内容説明と予後についての知見を述べて終わりました。事前に提出していた施術症例のリストでほぼ試問は終わっていたような感もありましたが、2 名の指導医を前に少々緊張感があった面接試験でした。幾つになってもやはり試験と名のつくものは緊張します。

今回当医院で使用しているインプラントの 1 つである AQB インプラントの学会にスキルアップのため入会させていただきました。

本学会で最新のトピックスを学び、また自身の施術症例を評価いただく良い機会だと思い、一念発起して本会の専門医認定試験にチャレンジしてみました。施術症例だけではなく、学会発表や学会教育講演参加、学会加入年数等いくつかのハードルがあるため、受験資格を得るまでに 4 年かかりました。入会時期が遅かったため、学会「専門医」資格受験の条件を充たすのに少々時間がかかってしまいました。

モチベーションの持続が一番大変だったような気がしますが、マラソンと同じで終わってみれば充実感が湧いてきます。「専門医」の証が無くとも臨床では問題ありませんが、過去の症例を見直し反省する良い機会になったと感じています。

AIM 専門医試験受験準備 足跡



AIM 学会入会
AIM 学会参加および教育講演受講
<http://www.j-aim.info/>



救急救命蘇生研修 BLS コース受講
アメリカ心臓協会の一次救命処置を BLS(Basic Life Support)といいます



「日本先進インプラント医療学会(AIM)発行の学会誌に症例論文投稿、掲載

査読を繰り返して結構大変でした！



受験申請資料の整理
自分の施術症例の見直しと整理ですこれ、結構大変です！



2012 年 7 月 22 日(日)
専門医認定試験 受験
2012 年 9 月 8 日(土)
専門医認定試験 合格！

一念発起から奮闘 4 年で合格
までたどり着きました！



日本先進インプラント医療学会(AIM)専門医とは…?

(AIM)一般社団法人 日本先進インプラント医療学会

The screenshot shows the AIM website's 'Specialist System Regulations' page. It includes the AIM logo, the organization's name in Japanese and English, and a list of regulations. The regulations are organized into sections: 1. Specialist System Regulations, 2. Specialist System Regulations, and 3. Specialist System Regulations. The page also features a navigation menu on the left with categories like '学会概要', '入会案内', '専門医制度', and '支部'.

学会専門医制度規則 第一章 総則 第1条

『AQB インプラントに関わる基本的知識と専門的スキルを有する歯科医師の養成を図り、口腔インプラント医療の発展と水準の向上に寄与し、もって国民の健康と福祉に貢献することを目的とする』とあり

学会専門医制度規則 第3章 専門医の申請資格

第8条 専門医を申請する者は本会会員で下記の全てに該当することを要する

- 1) 歯科医師の免許を有し良識ある人格を有するもの
- 2) 専門医申請時に3年以上継続して本会会員であること
- 3) 本会の研修を受け、AQBインプラントの治療経験があること (症例提出あり)
- 4) インプラント治療に関連する論文の筆頭演者、あるいは学術発表の演者であること
- 5) 救急救命蘇生研修 ECCトレーニングサイト、BLSあるいは ACLS,ICLS コースなどの研修を受けているもの

といった内容のもので、上記条件を審査され症例提出、口頭試問、面接を経て認定証が交付されます。

AIM 学会誌に論文を投稿いたしました

学会投稿論文規定には、『症例報告論文は臨床での定説に対する新しい診断法・治療法・治療術式等についての提言、予期せぬ合併症や経過をとった症例について、治療後少なくとも3年以上経過を観察した症例の報告で、書式は英文抄録、緒言、概要、考察、結論、文献の順で記述する事』とあります。

大学を離れ、一般臨床を行っているDr.にとっては結構ハードルが高いものです。

学位論文を書いたのは、はるか昔の出来事のため、ペーパーを書くという事自体拒否反応が起きてしまうのです。

しかし今回ちょっと頑張りました。悪戦苦闘の査読校正のやり取りの結果、なんとか形にいただきました！

査読していただきました AIM 理事の先生にはこの場をおかりして改めて感謝申し上げます。



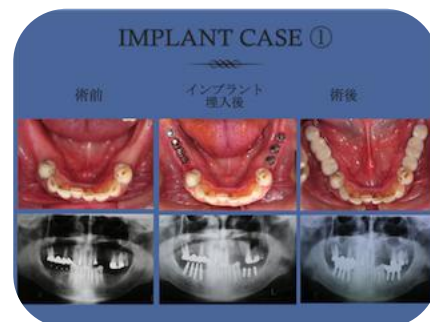
評価されるべきは施術症例の記録と反省と考察の積み重ね

この日本先進インプラント医療学会(AIM)専門医の資格は、現在当医院で使用しているインプラントシステムの中の一つである『AQBインプラント』の学会が認定する認定資格であり、学会規則の条件を満たしかつ試験に合格したものに認定証が交付されることになっています。

インプラント学会も多数あり、そのうちの一つの学会の認定する『専門医』資格という事です。

この資格が無くてもインプラント処置は十分可能ですし、あったからすごいという訳ではありません。自分の提出症例を学会が評価していただいたというだけのことだと思っています。

実際はスタッフや技工士さんがいてはじめて成り立つのが歯科インプラントなのです。今回の専門医申請には当医院スタッフに手伝っていただき資料を整理いたしました。この場を借りて深く感謝いたします。



症例の経時記録の積み重ねがないと反省と考察はできません…

自分の症例を考察する事はちょっと勇気が必要です



SEKI DENTAL ORTHODONTIC CLINIC

TAKAFUMI SEKI